

【別紙様式 I】 令和4年度 学校評価報告書

学校名 森の里中 学校

厚木市教育委員会の基本目標

- 1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成 【挑戦】
- 2 自他の命や豊かな感性を大切に、多様性を認めながら共に生きていく力の育成 【共生】
- 3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成 【創造】

校長名 小田中 正格

学校教育目標

学校経営の方針

「学び 鍛え 翔く」

- ・ 確かな学力を身につけさせるとともに豊かな心を育てる
- ・ 自主・自立の精神を育成するとともによりよい人間関係を築く
- ・ 将来への夢を持ち、自己理解の上に立ち、自己実現を促す

- 1 体験活動の充実
 体育的・文化的行事、キャリア教育、総合的な学習、地域社会との交流等を通し、探求的な学習や体験活動を通して様々な学びを体験させ、実体験の中で学ぶ場面を設定していく。
 成功体験、失敗体験を繰り返し経験させる中で学び、逞しく生きていく力の素地を身に付けさせる。
- 2 学習活動の充実
 学習に関しては、本校の「弱みへの対策」と「強みを伸ばす学習」の展開を重点とする。
 * 学力の二極化は繰り返し学習する経験の積み重ねの違いが大きいと思われる。新たに時間を設定し、基礎基本を繰り返し学習させたいが、日課の変更を伴うことになり、次年度の実施は難しい。
 教科指導計画の工夫で、二極化の克服にチャレンジする。
 * 総合的な学習など課題設定に自由度が高い学習では、生徒の豊かな発想や小学校から学んできた表現力などが発揮され、意欲的な学習が展開されている。令和4年度から取り組む総合的な学習を中心として行うESD教育を使い、コミュニケーション力、協働する力・多面的総合的に考える力を発揮させ、将来に役立つ学力を身に付けさせる。
- 3 地域との連携の推進
 地域の力を借りれば実現できることはコミュスクの活動を推進する。「地域に開かれた学校」と「職員の業務軽減」対策の活動の推進を重点として進める。
 * 環境面の整備に地域の力を借りる。教育力と奉仕の気持ちを持った地域住民の力を借りて教育環境の整備を進める。

今年度の重点目標

重点目標「自律・創造・貢献」の心の育成とし、体験活動を軸とした教育活動を展開する。

重点教育活動

- (1)キャリア教育の充実 :
 体験・経験に基づく価値観の変容と地域学校協働活動の推進
- (2)確かな学力の定着と伸長 :
 学ぶ意欲の向上、活用能力の育成
- (3)道徳教育の充実 :
 人間関係を築く力・社会参画意欲の醸成
- (4)心をつなぐ挨拶:
 基本的な生活習慣や規範意識の定着と他者との人間関係や社会との関わる力の育成

「コミュニティ・スクール」を次の4点を核に展開する。

- (1)キャリア教育推進
- (2)安全・環境・防災推進
- (3)地域行事ボランティア運営
- (4)小規模校の特色推進

評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
<p>《キャリア教育の充実》 ○望ましい職業観の育成にとどまらず、社会的自立に向けたキャリア教育の推進 ○多様な価値観に触れ、自己の生き方を見つめ、価値観を変容できる生徒の育成 ○コミュニティ・スクールによる校種間や地域が一体となり推進する体制の活用</p>	1・3	<ul style="list-style-type: none"> ・生き方(職業)講話(1年) ・職場体験学習(2年) 	<ul style="list-style-type: none"> ・1学年では、『生き方(職業)講話』を機に、職業への理解やキャリア教育への意識を持つきっかけとなった。 ・2学年では、3年ぶりに『職場体験学習』が実施でき1年次に行った『職業講話』を発展させた形で、キャリア教育での職業に対する関心を高めて職業について知り、将来の社会的な自立に向けての自己の進路設計について考えることができた。 ・この『生き方(職業)講話』、『職場体験学習』は学校運営協議会とも連携し、地域協働活動として地域の力を活用することができた。 ・生徒自らに生き方を考えさせ、将来を展望した目的意識をもって学校生活を送らせる契機となった。 ・一人ひとりの個性・能力・適性に応じた生き方選択ができる力を育む意識づけとなった。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域との連携・協働による取り組みを活かした次の項目を充実させる。 ・人間関係を広げつなげる生活体験の充実 ・他者と関わる場面の充実 ・地域社会と共に取り組む活動の充実
<p>《確かな学力の定着と伸長》 ○基礎的・基本的な知識・技能の習得から学ぶ意欲を向上させる生徒の育成 ○主体的・対話的で深い学びに向かう生徒の育成 ○創作活動による思考力・判断力・表現力の一層の推進</p>	1・2	<p>創作活動：</p> <ul style="list-style-type: none"> ①美術・音楽分野 ②地域文化作品展示(CS事業連携) ③生け花教室の開催(CS事業連携) <p>朝読書活動</p> <p>定期テスト対策・補習授業</p> <p>昼休み学習会(CS事業連携)</p> <p>T・T、少人数授業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度まで行ってきた『森中歌壇(短歌づくり)』は、生徒の創作活動、および編集活動の負担軽減を目的にあり方を検討し、廃止した。そのため、生徒活動のゆとりと各活動の振り返りを深めることができた。 ・①美術・音楽において、単に技術・技能の習得にとどまらず、主体的に取り組み対話的な活動を通し、思考力・判断力・表現力を十分に発揮させ、本校生徒の強みを活かし、成果をあげた。 ・②新たな創作活動として、『地域文化作品展示』を行い、情操を養う活動となった。今後は、学校運営協議会とも連携し、常設コーナーや定期的に開催できるように進めていきたい。 ・③特別支援級生徒を対象に、『生け花教室』を開催し、感性豊かな作品の制作活動が行えた。 ・朝読書活動では知的活動を増進し、思考力・判断力・表現力等を育成する観点からも、読書機会の定着など一層の推進が図れた。⇒学校司書の活用 ・毎週月曜日の部活動休養日に学習相談を実施するとともに、定期テスト前に学習会を実施した。 ・学校運営協議会と連携した『昼休み学習会』を立ち上げ、基礎・基本の学びの力をつける活動を始めた。 ・習熟度別やT・T等細かな配慮のもとに学習効果を高め、基礎・基本の定着を図った。 ・基礎的・基本的な知識の定着をねらいに個に応じた指導(T・T、少人数授業)を実践し、学びの浸透・学習意欲の向上に効果をあげた。 ⇒2年・3年の英語でT・T指導を実施。 ⇒2年・3年の数学で少人数指導を実施。 ⇒学力ステップアップ支援員を1年英語・数学で活用。 	<p>本校の特色「創作活動」を活かした「主体的・対話的で深い学び」を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GIGAスクール事業推進のため、校内の指導・活用体制や研修を推進する。 ・学ぶ意欲の向上に向け、地域の教育力を活用する。 ・昼休みの学習会の周知を広め、1年生対象から学年を拡大していきたい。また、利用者の拡大を進める。さらに、地域の人的資源を生かし、多岐にわたる生徒の要望に応えられる基盤をつくる。

<p>《《道德教育の充実》》 ○自己肯定感を基盤に、他者への思いやりの心を育む道德教育の要となる特別な教科となる道德の実践の充実 ○他者との人間関係や社会との関わりに目を向けた、学校と家庭や地域社会が共に取り組む体験活動の一層の推進</p>	<p>1・2・3</p>	<p>体験の重視 ・地域社会と共に取り組む体験活動 ①地域防災活動 ②環境整備活動 ③地域ボランティア活動 ④文化発表会へ招待(中止) ・『特別の教科 道德』の指導の工夫 ・『考え、議論する』活動や問題解決的な学習など多様な方法を取り入れた指導の工夫</p>	<p>・『地域社会と共に取り組む体験活動』を実施することができるようになった。 ・書物による机上学習に留まってしまったが、読み物から学び、考え、議論する学習活動を進めたことにより、道德的価値に関わる意識を高めることができた。 ・道德教育の要である『特別の教科 道德』の指導をより効果的に行えるよう、学校と家庭と地域社会が共に取り組む体制や小中連携による実践活動の充実などの体験活動は推進することができなかった。 ・指導のねらいに即して問題解決的な学習や体験的な学習を適切に取り入れるなど指導方法の工夫を年間計画に入れ意識付けを図った。 ⇒特別活動等における多様な実践活動や体験活動も『特別の教科 道德』に生かした。</p>	<p>人間関係を築く力・社会参画意欲や態度の育成を重点に、体験的な学習を適切に取り入れた指導方法を工夫する。 * 学習活動の推進と、コミュニティスクールを基盤とした地域連携・学習活動の充実。 ・『環境整備活動』、『地域ボランティア活動』を推進していく。</p>
<p>《《心をつなぐ挨拶》》 ○「人は人によって人になる」学校の原点は人と人が関わること。人と人が共に創っていく学校の本質を挨拶でつなぐ。</p>	<p>2・3</p>	<p>挨拶運動 挨拶短歌づくり 挨拶横断幕掲揚 生徒会交流会</p>	<p>・挨拶運動が定着し、挨拶の大切さ、人として基礎を鍛える力を磨くことの意義が定着しつつある。今後の更なる意識向上を期待したい。 ・日常生活等での基盤となる道德性や感性を培う指導の充実を明確にした。 ・生きる上で必要な自己有用感を体験的に習得する活動を重視することで、人としての基礎を鍛える契機を得た。 ・基本的な生活習慣や善悪の判断、決まりを守る等、日常生活や学習の基盤となる道德性や感性を培う意識が芽生えた。 ・生徒会主催で昼休みに全校生徒がレクリエーションで交流する機会をつくり、全校生徒がつながる活動を推進した。</p>	<p>・定着してきた『あいさつ運動』、『挨拶短歌の制作』を継承していく。 ・生徒主体の生徒会交流会を定着させ、生徒自身の企画力を高めていく。</p>

今年度の学校関係者評価委員会からの意見

- ・学校教育活動における学習活動、生徒活動、学校行事、地域連携活動等が、制限は残るものの、日常的に活動できるようになってきた。昨年度のコロナ禍における生活や制限がある中から、新たな学校生活のスタイルを取り入れた教育活動が進められてきたことは評価できる。
- ・学校行事をはじめ、授業の様子などでも生き生きとした表情で活動している姿を見ることができ、次年度に向けての期待が高まった。
- ・学校運営協議会において、本地区の地域コミュニティを基盤に小規模校の魅力化推進を図る教育活動の展開を目標に据え、学校の抱える課題を地域と共に考え、協議を重ねる過程の中で、将来への糸口となる理解・支援体制を継続的に育んでいくことが確認された。
- ・「地域の教育力の活用・連携の事業」として、元教員を中心とした人材の発掘、週2回の『昼休みの学習会』を開催することができた。また、今年度も特別支援教室在籍生徒を対象とした『生け花教室』を開催し、今後の展開に期待ができた。

今年度の学校経営のまとめ・次年度への改善の方針

○学校規模の縮小、学級数・教職員数の減少の状況から、次年度についても、本年度と同様の計画を継続し、学校規模相応の教育活動と地域連携を進めていくことを確認した。また、地域の教育力を生かす連携を無理のない範囲で進めていけるよう、工夫・検討していく。

- 1 社会性を育む手立て
 - ・固定化される人間関係を広げつなげる生活体験
 - ・他者と関わる場面の充実
 - 参加型から運営型への意識転換
 - 支援される意識から支援する意識への転換
 - ・感謝の心の育成
- 2 多様な体験活動を活かす工夫
 - 地域社会と共に取り組む活動の充実
- 3 「家庭・学校・地域」三者の役割連携
- 4 社会に開かれた教育課程の推進
 - ・9年間の学びを推進する学校づくり
 - ・地域の人的資源を活かした学校づくり